

【生物】

福岡大医学部の生物は大問5題から成り、最近では2年前の入試で「原尿以降にタンパク質が含まれない理由」を30字以内の論述で訊いてきた以外、すべて選択問題か生物用語の短答式となっている。よって、過度に論述形式を心配する必要はないと考えられる。

また、計算問題もとくに目立ってはいない。昨年度は代謝で、同化産物量に関する典型的なものだった。生物用語も計算も、全体的に基礎的な良問が多い。

そこで、真に警戒すべきは、データをもとにした実験考察問題となる。一昨年の、ニューロンを用いた興奮の伝導実験は問題文が多少読み取りにくく解答しづらいものだったが、昨年のカサノリの傘の再生など、よくあるテーマも多い。ただし、たしかに形式としては答えやすくラクに考えがちだが、データ読み取りの巧拙で結果的に差がつきやすい。グラフの縦軸や横軸、また何に関するデータなのかを常に気にしながら、解釈すること。

出題分野としては特段の偏りは見られない。わずかに生態系や進化・分類が少なめという程度である。そこで、今年度は浸透圧の計算問題、分節遺伝子の考察問題、GFPやiPS、眼の構造や働き、体温調節、植物ホルモン、成長曲線や生存曲線など生態系の考察問題が要チェックとなる。

答えやすいということは、ごまかしが効かないということでもある。時間的には余裕があるので、焦らず丁寧に考えて解答を作成して欲しい。健闘を祈る。

【英語】

福岡の英語の問題で差をつけるとすればⅢ、Ⅳ、Ⅴ番ではないだろうか。Ⅰ番の記述やⅡ番の長文にせよ、難易度は他の医大に比較して困難ではないと言える。しかしⅢ番のeの問題のような連鎖関係詞やfの受動表現、hの3人称単数扱い等は油断すると失点するだろう。

発音問題は対策を行っている生徒は全問取って来ると思われるため微差をつけることは可能だろうと思う。Ⅴ番の整序英作も油断をすると落とす可能性もあるだろう。結論として福岡の問題は微差がつくか、つかないかということにしかならないと言える。「ほぼできた!」と安易に安心するのではなく、見直しをしっかりと最後にすることが大切だと思います。